

## AMH(抗ミュラー管ホルモン)について

最近、血中のAMH(抗ミュラー管ホルモン)が卵巣予備能(卵巣年齢)の指標として注目されています。

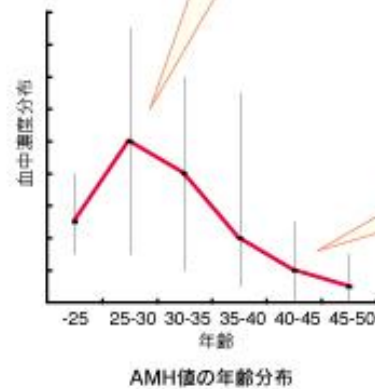
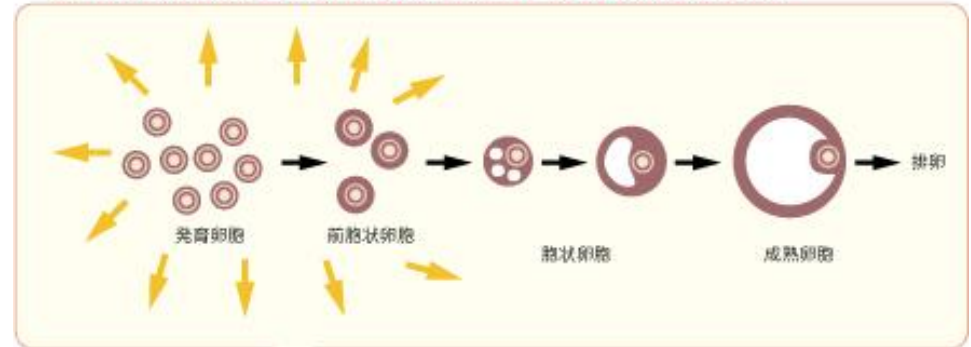
AMHとは？

女性の卵巣の中には生まれつきたくさんの原始卵胞があります。原始卵胞は月経が始まる時期になって活性化し、発育卵胞→前胞状卵胞→胞状卵胞→成熟卵胞と成熟し、約190日かかって排卵を迎えます。卵胞は原始卵胞が活性化し始めるとAMHを分泌すると言われており、前胞状卵胞が主たる産生源であるといわれています。他のホルモンと比べ月経周期のどの時期でも測定可能であることも大きな特徴です。

成人女性の血清AMHは年齢上昇とともに低下し、前胞状卵胞の消失を反映します。つまりAMHの低下は卵巣機能が悪くなっていることを意味します。また、体外受精においてAMHは排卵誘発における卵巣の反応性(=採卵によって得られる卵の数)を予測する指標になるとの報告があります。AMH低値の場合、採卵数・受精卵数が低下することで妊娠率も低下することからAMHの測定は不妊女性の卵巣予備能を知るよい指標になると考えられています。

検査は1回3500円(保険適応外検査、消費税別)で、1週間前後で結果が分かります。月曜から土曜までの診療時間内に検査可能です。

発育卵胞、前胞状卵胞よりAMHが分泌され、AMH値はその数に相関します。



年齢上昇により発育卵胞の数が減少し、AMH値も減少します。

